

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	672300381
法人名	社会福祉法人 さくら福祉会
事業所名	グループホームかほく
訪問調査日	平成 20 年 8 月 7 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 3 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	672300381		
法人名	社会福祉法人 さくら福祉会		
事業所名	グループホームかほく		
所在地 (電話番号)	山形県西村山郡河北町谷地字砂田207-1 (電話) 0237-71-1201		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年8月7日	評価確定日	平成20年10月3日

【情報提供票より】(平成20年7月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 12 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	13.5人, 非常勤 1.5人, 常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	鉄骨木造造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 10,500 円
敷金	有(円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(7月17日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84.2 歳	最低	58 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立河北病院 槇歯科クリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームの利用者と共用型認知症対応型通所介護の利用者が打ちとけた雰囲気の中で、思い思いにくつろぎ、穏やかな時を共に過ごすことができています。
一人ひとりの個性を大切にしながら利用者と向き合う個別支援を目指している点、認知症の進行を少しでも緩やかにしようと専門医との連携に努めている点、地域に根ざした事業所として行事・交流・講演などの幅広い活動に取り組んでいる点など、どんな場面でも管理者と職員が協力し、サービスの質をさらに高めて行こうとしているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前は評価の意義や評価項目のねらいについて、職員に十分浸透しきれていない状況も見受けられたが、その後の取り組みとして、前回の評価結果についての再確認や話し合いを重ねてきており、今回の評価にも結びつけることができています。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は昨年の評価結果と比較しながら今年度の取り組みを進めるよう職員に伝え、職員全員が評価内容に目を通し、意見を出し合いながら取り組んでいる。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月ごとに開催され、事業報告や利用者の状況、行事予定、外部評価結果などが報告されている。また、今年度からは行事や講演会と一緒に行事所を地域の方に知ってもらい取り組みも行われている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関に「お客様苦情相談箱」を設置したり、家族懇親会の開催や面会時に話しかけを行い、気軽に意見や苦情を出しやすいように働きかけている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎日の散歩や食材の買出し、地区の振興公社の協力を得て行う夏祭り、町内会の行事やレクリエーションへの参加など、町民との積極的な交流に努めており、同じ町内の事業所であることを認識・理解してもらえるよう取り組みを進めてきている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義は全職員に理解されており、各ユニットでその時にあった身近な目標を月ごとにホールに掲示しているが、地域密着型サービス事業所全体としての独自理念を作成するまでには至っていない。	○	現在ある各ユニットごとの月目標に加え、事業所全体として今後進もうとする方向がより明確なものとなるよう、事業所全体としての独自理念についても作成してみる取り組みが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は目標を意識しながら実践に向けて取り組んでおり、利用者にも知ってもらうためにホールに目標が掲示されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日の散歩や食材の買出し、地区の振興公社の協力を得て行う夏祭り、町内会の行事やレクリエーションへの参加など、町民との積極的な交流に努めており、同じ町内の事業所であることを認識・理解してもらえよう取り組みを進めてきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は昨年の評価結果と比較しながら今年度の取り組みを進めるよう職員に伝え、職員全員が評価内容に目を通し、意見を出し合いながら取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催され、事業報告や利用者の状況、行事予定、外部評価結果などが報告されている。また、今年度からは行事や講演会を一緒に行い事業所を地域の方に知ってもらう取り組みも行われている。		

山形県 グループホームかほく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町が主催するサービス調整会議への参加や、共用型認知症対応型通所介護事業所の開所に向けた相談などを通して連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季節ごとのお便りや、担当が記載している「生活状況のお知らせ」と預かり金の明細書を毎月家族に送付している。また、通院時の個別報告、職員異動の家族懇親会や面会時の紹介も行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「お客様苦情相談箱」を設置したり、家族懇親会の開催や面会時に話しかけを行い、気軽に意見や苦情を出しやすいように働きかけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2つのユニットは常に交流があり職員とも馴染みの関係ができているため、ユニット間の職員交代によりダメージを受けることは少ないが、さらに利用者の状況の申し送り等を確実に行ってダメージを防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員は段階に応じて事業所内外の研修に参加しており、復命書の回覧による職員間の情報共有も図られている。また、研修案内が届いた際にも希望者を募り、職員の自己研鑽の機会を設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会の研修会や、近隣のグループホームとの情報交換によりサービスの向上に努めている。また、8月には交換研修が予定されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であることを念頭におきながら関わりを持っており、地域の風習や季節の料理を教えていただきながら、その時々思いを共感している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で時間をかけながら意思疎通を図り、利用者との会話の中から希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前に本人や家族の要望を聞いて担当者で話し合いを行ってからサービス担当者会議を開催し、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の評価、6ヶ月毎の見直しが行なわれており、また、利用者に変化が生じた際は随時見直ししながら、現状に即した新たな計画を作成している。		

山形県 グループホームかほく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	かかりつけ医については、利用開始時に本人と家族に 希望を聞き決定している。受診支援を行うことにより医 師と気軽に相談できる関係ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	看取りに関する指針が整備され、利用開始時に本人と 家族に説明を行い承諾書をいただいている。体調変化 時は医師や家族、関係職員で話し合いがおこなわれ、 全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	接遇態度には常に注意を払い対応している。また、広 報誌に掲載する写真も家族の承諾を得たり、介護記録 の利用者表示も工夫するなど個人情報にも徹底が図ら れている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事にし、思いを大切にその日 を過ごせるよう対応している。『いきいき、のびのび、ゆう ゆう』の目標通りに支援している。		

山形県 グループホームかほく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食の献立は広告を見ながら利用者と一緒にたて、嗜好や状態に合わせて柔軟に対応している。また、利用者の意欲や能力に応じ準備や後片付けを共に行うようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも希望するときに入浴できるよう支援されている。また、入浴を拒否する利用者には日々の変化を見極めながら、時間をおいたり職員を代えるなどの支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や畑仕事、習字の先生をしてもらうなど、長年培った経験を発揮できる出来る場面が提供されている。また、障害や年齢により制限があっても、今出来ることを見極め無理なく楽しみながら行えるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人で出かけることを希望する利用者に対しては、職員が利用者につき添って繰り返し出かけてみたり、身元が確認できるもの身につけて出かけてもらうなどの工夫をしながら、一人ひとりの希望に合わせた支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	全職員が鍵をかけることの弊害を理解して、利用者の状態を把握しながら一人ひとりに寄り添うケアを行っており、鍵をかけないケアの実践がなされている。また、利用者が他の利用者に声をかけてくれるといった協力も得られている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回昼・夜を想定した避難訓練を消防署と連携して行い、全職員が適切な避難誘導が行えるようにしている。また具体的な災害時のマニュアルも作成中である。		

山形県 グループホームかほく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝、昼の献立は職員でもある栄養士が立てており、食事や水分の摂取量の把握が行われ記録されている。また、利用者の健康状態に応じて高カロリー食を提供するなどの支援も行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は広々とゆったりしており思い思いに居心地良く寛げる空間であり、壁には間近に迫った夏祭りのはっぴや提灯が飾られ、季節感が感じられるように工夫している。また、二重サッシ使用による不快な音や温度差の遮断もなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだものを持参してもらうよう家族に説明しており、利用者が使い慣れたテレビや椅子、生活用品が持ち込まれ、壁には家族のお手製の装飾品や本人の力作が飾られるなど、居心地良く過ごせるよう工夫がなされている。		